

一般社団法人真岡青年会議所 2022年度委員会事業計画

総務委員会

委員長 宮澤 保行

委員会設置背景

新型コロナウイルスによる影響で、私たちはこの2年間で沢山の变化に対応してきました。そして今後、訪れる変化へとさらに適応するべく、受け継がれてきた伝統を变化に適応させ、柔軟なLOMの運営をすることが必要です。また、よい事業を行ったとしても、私たちの世代に私たちの活動・事業をまだまだ認知いただけてるとはいえません。私たちの活動を認知いただき、事業がさらに魅力あるものとなるよう、より効果的な広報活動をする必要があります。

委員会設置目的

今後のさらなる変化に適応するべく、時代変化に即したLOM運営を実現し、次代へとつなぐことを目的とします。また、タイミングやターゲットを意識した広報活動を通して、私たち自身もLOMについて再認識をしてもらうことで好循環を生み出し、メンバー一人ひとりが広報の意識をもってもらうことを目的とします。

運動手法

- ・ 1月第1例会 通常総会
1年間の進むべく道をメンバーに認識・統一するために、受け継ぐ伝統を守りつつも変化に適応した1月通常総会を開催し、組織として一体感のある活動をスタートさせます。
- ・ 7月第1例会
とくにアカデミーメンバーへ刺激を与えるために、サマーコンファレンスへの参加を促し、大きな事業や他LOMの活動に触れ、視野を広げていただきます。
- ・ 9月第1例会 臨時総会
より強靱な組織へと成長をするために、9月臨時総会を開催し、次年度への意識を向上させます。
- ・ 12月第1例会 臨時総会
1年間の活動を総括し、次年度へつなげるために、12月臨時総会を開催し、次年度の組織が飛躍する契機とします。
- ・ 広報活動について
真岡青年会議所の活動の認知度を高めるため、今あるコンテンツを活用し、1年を通して様々な手法に挑戦し、検証していくことで、より効果を期待できるアプローチ方法を構築します。

1年後の効果

時代や環境の変化に対し、総務委員会が筆頭となって柔軟に適応し、LOMを運営することによって、メンバーにも波及効果を生じさせ、変化に対しアクティブな姿勢を取ることができるようになり、真岡青年会議所がより強い組織へと成長します。さらに、広報の面においては、1年間の検証結果として、手法を構築、引き継いでいくことで、今後の真岡青年会議所の認知度やブランド力が向上します。